

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和7年6月25日	
青森県知事 宮下 宗一郎 殿	
提出者 住 所 青森県十和田市相坂字下前川原25-1 氏 名 太子食品工業株式会社 執行役員部長 工場長 門前 一記 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0176-22-7001	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	太子食品工業株式会社 十和田工場
事業場の所在地	青森県十和田市相坂字下前川原25-1
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	食料品製造業
②事業の規模	生産金額 約50億円
③従業員数	252名
④産業廃棄物の一連の処理フロー図	添付資料 ①

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

添付資料 ②-2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	生ゴミ、廃プラ、燃え殻、	
	排出量	1230 t	t
	<p>（これまでに実施した取組）</p> <p>工場生産ラインのロボット化、歩留りロス削減に取り組み。 生ゴミロスは全量、バイオ発電業者へ搬入。 （メタンガス電力発電化）</p> <p>工場全体で3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を実施 生産工程から出る産業廃棄物を削減させる</p>		
② 計画	【目標】（令和7年度）		
	産業廃棄物の種類	生ゴミ、廃プラ、燃え殻	
	排出量	1100 t	t
	<p>（今後実施する予定の取組）</p> <p>畜産業者等へ飼料、肥料販売 売り込み（生ゴミ） 生ゴミについては、生産現場ロス削減依頼（作業ミスを減らす） 燃え殻は、薬品（ポリ鉄）添加により、燃焼効率を良くし、削減計画 廃プラについては、包装材の変更（環境に優しいもの）や大きさ、厚さ、 材質等の変更も行なって減量を行なう。</p>		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 生産ラインのロボット化等、ロスラインの見直し。 生ゴミロスの有効活用検討(たい肥化、製品化等)。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 生ゴミ・については、生産現場不良品発生量の低減ならびに商品化を実現するために情報収集を行う 燃え殻(灰)は、肥料化等、情報収集を行なう

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃油、オカラ、汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	7601 t	t
	（これまでに実施した取組） 工場から出た廃油は、ボイラーに再生燃料化しリサイクル使用 オカラは全量、飼料、肥料販売 汚泥は全量、肥料販売		
② 計画	【目標】（令和7年度）		
	産業廃棄物の種類	廃油、オカラ、汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 前年度に引き続き、オカラ、汚泥、廃油は再生利用計画		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
② 計画	【目標】（令和7年度）		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。